

**(仮称)厚別山本公園造成事業
環境影響評価方法書**

答 申

平成21年2月

札幌市環境影響評価審議会

平成 21 年(2009 年) 2 月 17 日

札幌市長 上田 文雄 様

札幌市環境影響評価審議会
会長 村野 紀 雄



(仮称) 厚別山本公園造成事業に係る環境影響評価方法書について (答申)

平成 20 年 12 月 11 日付け札幌推第 5790 号にて、当審議会に諮問のあった標記の件について審議を重ねてきたところであるが、別紙のとおり意見を提出する。

(仮称)厚別山本公園造成事業に係る環境影響評価方法書について

標記方法書に記載された調査、予測及び評価の手法について、環境保全の見地から、事業者は下記の事項に十分配慮する必要がある。

1 動物・植物について

(1) 地域特性の把握について

当事業予定地及びその周辺地域はかつては湿性植物群落地であり、現在は草原性の環境となっている。しかし、関係地域の概況の中で挙げられている動植物相のほとんどが野幌森林公園のものであり、当事業予定地及びその周辺地域の特性を適切に表していないと考えられる。

このことから、現況及び潜在動植物相の把握や影響予測を十分に行うことのできるよう、当事業予定地及びその周辺地域に現存する草原地及び湿性植物群落地を調査対象地点として適切に選出する必要がある。また、各生物群の把握については調査回数を増やす等により、結果に漏れの少ないよう配慮する必要がある。

(2) 鳥類について

ラインセンサス法による調査を行う場合、鳥類相を正しく把握するため、1シーズンあたり7, 8回の調査を行う必要がある。

定点調査では、広域的な鳥の移動を視野に入れた調査が必要であることから、適切な調査地点、箇所数並びに時間帯を検討する必要がある。

ラインセンサス法や定点調査では、出現の優位性の高い種にバイアスがかかりやすいという欠点がある。このため、タイムマッピング法やテリトリーマッピング法等の別の調査手法も検討し、実際の生息数や繁殖^{つが}番い数を把握できるような調査に努める必要がある。

(3) 両生類・は虫類について

当事業予定地及びその周辺地域には生息していないと考えられるエゾサンショウウオが主な動物相と記載されていることから、当該地での重要な種を適切に抽出し、調査対象を選定する必要がある。

(4) 昆虫類について

昆虫類の調査に関して、水生昆虫についても調査対象とする必要がある。その場合、底生動物と水生昆虫の調査では、調査手法に若干の違いがあるため、一くりにせず、

それぞれ個別の手法で調査を行う必要がある。

(5) 工事による動植物への影響について

建設機械の稼働による動植物への影響は著しいため、これについても評価項目とする必要がある。動植物の生息への影響を最小限にするためには、工事時期をいつにするのが最良なのかを多角的に検討する必要がある。

(6) 外来植物について

当事業予定地は、ニセアカシア等の外来植物が生育しており、今後さらに広まっていく可能性がある。従って、ニセアカシア等の侵略的な植物について、現況を把握するため調査の対象とする必要がある。

(7) 生態系について

当事業予定地及びその周辺地域は、動物が生息地として利用していることから、植生と動物との関係性を把握する必要がある。

2 大気環境について

関係地域内に存在する大気汚染測定局は、いずれも当事業予定地から 2km 以上離れている。従って、浮遊粒状物質及び窒素酸化物の評価を行うために、当事業予定地と近接した場所でのデータを実測する必要がある。

3 景観について

(1) 調査時期について

景観の調査について、夏季と秋季に調査を行うとしているが、冬季は樹木の葉が枯れ落ち、他の季節では見えない景色が見えるようになる可能性があるため、冬季においても景観の調査を行う必要がある。

(2) 近傍景観について

景観について、方法書に記載されている眺望地点から見る遠景のみではなく、近接する既存のレクリエーション施設等の日常的な触れ合い活動の場から見た近傍景観の形成についても検討をする必要がある。

付 属 資 料

目 次

1	諮問書	2
2	審議経過	3
3	札幌市環境影響評価審議会委員名簿	4



札環推第 5790 号

平成 20 年(2008 年)12 月 11 日

札幌市環境影響評価審議会

会長 村野 紀雄 様

札幌市長 上田 文雄



「(仮称)厚別山本公園造成事業」に係る
環境影響評価方法書について (諮問)

このことについて、環境の保全の見地からご審議いただきたく、札幌市環境影響評価条例の規定により諮問いたします。

審 議 経 過

札幌市環境影響評価審議会	開催年月日	内 容	出席委員
現地視察	平成20年11月10日	・事業予定地視察	委員10名 専門委員2名
本会議 (諮 問)	平成20年12月11日	・ 諮 問 ・ 方法書について ・ 今後の審議方法について	委員12名 専門委員2名
本会議 (答 申 案)	平成21年 1月29日	・ 答申案の取りまとめ	委員12名 専門委員2名

第五次札幌市環境影響評価審議会委員名簿

	氏名	職業	専門	専攻	通算任期
1	ヤナイ 柳井 セイジ 清治	北海道工業大学 環境デザイン学科 教授	動物	河川環境 水生生物	1期
2	オオタ 太田 サチオ 幸雄	北海道大学大学院工学研究科 大気環境保全工学 教授	大気等	大気保全 環境気象	5期
3	オカムラ 岡村 トクニ 俊邦	北海道工業大学工学部 環境デザイン学科 教授	植物	砂防学	5期
4	ヤマモト 山本 ユウコ 裕子	北海学園大学工学部 社会環境工学科 准教授	その他	環境リスク	1期
5	タカハシ 高橋 マサヒロ 正宏	北海道大学大学院工学研究科 水圏環境工学講座 教授	水質	水環境保全工 学	2期
6	ナカイ 中井 カズコ 和子	中井景観デザイン研究室 代表	景観		5期
7	サトウ 佐藤 テツ ミ 哲身	北海学園大学工学部 建築学科 教授	騒音等	建築環境工学	1期
8	イガラシ 五十嵐 トシフミ 敏文	北海道大学大学院 工学研究科 教授	地盤環 境	地下水、地盤	1期
9	フジタ 富士田 ヒロコ 裕子	北海道大学 北方生物圏フィールド科学セ ンター 准教授	植物	植物生態学	5期
10	トウジョウ 東條 ヤスマサ 安匡	北海道大学大学院工学研究科 廃棄物資源工学講座 准教授	廃棄物	廃棄物処分工 学	1期
11	ホリ 堀 シゲヒサ 繁久	北海道開拓記念館 資料情報課長 学芸員	動物	昆虫学	2期
12	ニシカワ 西川 ヨコ 洋子	北海道環境科学研究所 自然環境部 植物環境科長	植物	植物生態学	1期
13	マルヤマ 丸山 ヒロコ 博子	丸山環境教育事務所 代表	ふれあ い活動		5期
14	ムラノ 村野 ルイ 紀雄	酪農学園大学 環境システム 学部 地域環境学科 教授	動物	自然環境保全	5期
15	ヤマシキ 山崎 ナオコ 直子	酪農学園大学 環境システム 学部 生命環境学科 教授	動物	発生生物学 細胞生物学	3期
専門	シマダ 島田 アキヒコ 明英	自然ウォッチングセンター 代表	動物	鳥類学	公園化事 業
専門	タケナカ 竹中 マキ子 万紀子	東海大学 非常勤講師	動物	鳥類学	公園化事 業